



施工前の中庭

# リメイクの目指すは 清涼感！！

昔しより、日本の住環境は「夏を宗とすべし」という言葉がある。冬の寒さよりむしろ高温多湿な夏を中心に考えた方がより快適で理想であるとしている。

今回はH邸より中庭のリメイクの依頼があった。

設計にあたっては坪庭風なある種の軽さ、水が持つ清涼感を主眼とした。

リメイク前はインターロックの石敷に数ヶ所の植栽域があるという中庭でした。

## 雑木林風に都会に里山を演出



みどり積木の端木  
リズムと動き  
を庭に  
花岗岩で  
表現

そこに、壁泉と湧水を取り入れ、庭に水の煌めきや水音による清らかさを演出してみた。植栽は、ナツハゼの株立ちや、秋に風情のある実が成る、ツリバナを植え、山地の明るい林内の雰囲気とした。壁泉の壁は花岗岩の端材をランダムな小端積みとし、リズム感を、また湧水口には灯籠の「はぐれもの」を用い、サステイナブルで野趣溢れる空間とした。

(有)林庭園設計事務所  
〒193-0823 東京都  
八王子市横川町991-6  
TEL:042-622-8840

再刊 VOL.8



万葉の歌人、山上憶良が歌った秋の七草に朝顔とある。鬼子母人や浅草寺の境内で、夏の風物詩朝顔市で売られる、あの朝顔は万葉の時代にはまだない平安の頃、中国より薬として日本に入ってきたとあります。

秋の七草の朝顔は、いわゆるヒルガオ科のアサガオでなく、ムクゲ又は、今最も有力な説であるキキョウではないかとされている。

加賀の千代女の有名な句にあさがほに釣瓶取られてもらひ水というのがある、この句は江戸時代安永年間に詠まれているから、そのころアサガオはかなりふつうのものとなっていたようです。

江戸時代中期になると、世界でも最も有力な園芸大国となっており、さかんに品種改良が行われていた。大輪咲き、重弁咲きなどの珍品が数多く、色とりどりの多彩な花が作り出され「朝顔合せ」や「花競べ」などの言葉が生まれる程、互いに優劣を競ったものらしい。

さて、アサガオという名前の意味であるが、「朝咲く美しい朝の顔」という意味であるかと思いがちであるが「顔」ではなく、アサガオはもとも朝の容花（かおばな）であり容花とは美しい姿という意味で、いわ



理に於いてもかなり手間のかかるものであった。最近ではローメンテナンスな庭を求める、声が多くなってきた。

今号も前号に引続き、雑草対策など、ローコスト、ローメンテナンスな庭のリメイクな一例としてH邸の庭作りを取上げてみた。

もちろん、大名庭園を想わせる、能の舞台の正面の松の様な松や大きな景石を用いた庭を造ってはみたくても現実には個人では難しい時代だ。皆様のお声をお待ちしています。



キキョウ



ムクゲ

ゆる八頭身美人ということになる。

一寸と前の庭は「三毛」といって、モッコク、モチ、モクセイを植えるのが価値ある庭とされてきた。

この三つの植物は、どれも目立つ花が咲く訳ではなく維持管理に於いてもかなり手間のかかるものであった。最近ではローメンテナンスな庭を求める、声が多くなってきた。